

学会の研究発表を聞く場からしばらく足が遠のいていた時期があった。約10年のブランク後にまた学会の催しに顔を出すようになって、あるとき妙なことに気がついた。「……になります」である。ファミレスコンビニ言葉、あるいは略してファミコン言葉とも言われているらしい。客に料理や飲み物を出すときに、

「コーヒーになります」

というあれである。いつごろからだろうか。新聞や雑誌の記事で

「〇〇円からいただきます」

などと並べて、ファミリーレストランやコンビニエンスストアの代表的な言葉遣いとしてしばしば取り上げられている。あるファミリーレストランチェーンには『五つの禁句』というのがある。そのなかにも入っていると新聞で読んだことがある。

この「……になります」が学会のプレゼンテーションでも頻繁に使われていたのである。映し出された画面を指して、

「こちらが実験結果になります」

「これが解析結果になります」

というように使う。もちろん、見ている前でその画面に何らかの変化を生じて実験結果や解析結果になるわけではない。単に、

「こちらが実験結果です」

「これが解析結果です」

と言っているだけである。そのことに気がついてからこの「……になります」が大変気になるようになった。社内のプレゼンテーションでも使われていた。人によって使用する度合いは違うが、これが頻繁に出てくる人の話はそっかが気になって中身が頭に入らないこともある。

ただ単に「です」ではぶっきらぼうであるように感じ、「……になります」の方が丁寧だと思って使うのだろうと推察している。レストランで料理を出す場面で丁寧に言うなら「……でございます」だが、これは使い慣れていないと使いにくい。若い人だと「ございます」という柄もない、という感じか。客先へのプレゼンテーションなら「……ございます」がふさわしい場面もあると思うが研究発表のプレゼンテーションで「ございます」はちょっとおかしい。「……です」で十分である。

このことに気が付いてからもう5年ほどになるが、

『なります』症候群

技術開発本部

浜本 章



「……になります」はますます増えてきているように感じる。最近では広告や案内書の中の文字としても「……になります」を見掛けるようになっていく。

日ごろ、頻繁に耳にして気持ちが悪く感じている「なります」に、

「降りるお客さまが先となります」

「この電車は〇〇行きとなります」(もちろん行き先が変わったわけではなく、もともと〇〇行きである。)などの鉄道のアナウンスがある。鉄道のアナウンスなどマニュアルがありそうなものだが、そのマニュアルがこうなっているのだろうか。

買い物に行ってレジで代金を払うとき、100 円の商品 1 個だけでも

「100 円になります」

と告げられる。これも気持ちが悪い。

これはもしかすると消費税に端を発しているのかもしれないと思っている。初めて消費税が導入された時は外税で 3%であった。つまり 100 円の商品をレジに持ってくると、店員は消費税を足して

「103 円になります」

と言った。100 円と消費税 3%分で 103 円になる。これはごく自然な表現である。消費税が導入されたのは平成元年のことだった。もう 25 年近くも前のことだ。複数の品物をレジに持って行って、合わせて

「〇〇円になります」

というのも自然だ。とにかく店員の応答としては「〇〇円になります」

でよかった。

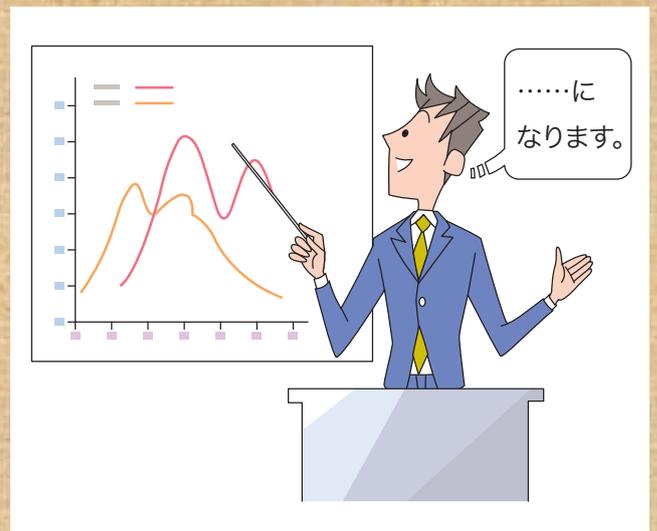
その後消費税が内税に変わった。払うべき金額はもともと表示されている。したがって商品 1 個だけならば

「〇〇円です」あるいは「〇〇円でございます」だろう。しかしそうはならなかった。消費税が外税であったそれまでと同じく、品物 1 個であっても

「〇〇円になります」

が客に金額を告げる言葉遣いとして定着してしまった。私はこれを確かめる手段をもっていない、というより確かめる努力もせずに言うのだが、もしかすると「……になります」はこうして始まったのではないだろうか。

言葉や言葉遣いは話題になることも多いが、意外に気が付いていないものでもある。ここまで書いてきた「……になります」も、私自身ある時期から急に気になりだし



ただけの話である。

学会の懇親会で、ある大学の先生にこの「……になります」の話をした。その先生は半信半疑であった。そんなことは聞いたことがないような気がするが…と。ところが、翌日の講演会の会場で前の方に座っていたその先生が私の方に向かって笑顔でうなずいているのである。つまり、「納得」というわけである。

この先生に限らず、多くの人は、「コーヒーになります」がおかしいという記事を目にしたことがあったりしてそれに納得し、頭に何か刷り込まれてからはそれを聞くと違和感をもつようになった。ところが場面の違う「実験結果になります」には違和感をもたない。もともと「コーヒーになります」と言われることに感覚的に抵抗があった人と、記事を目にしてそういえばおかしい表現だと思うようになった人で「実験結果になります」への感じ方が違うのかもしれない。知識と感覚の微妙な作用というかバランスというか、がありそうだ。

A. 「コーヒーになります」も「実験結果になります」も容認

B. 「コーヒーになります」は認められないけど「実験結果になります」は容認

C. 「コーヒーになります」も「実験結果になります」も否認

あなたはこの文を読む前までは A, B, C のいずれでしたか。そして今はどうでしょうか。